

「東北復興に向けた災害廃棄物処理推進展」展示パネルイメージ

2011年3月11日14時46分 東日本を襲ったあの大震災によって、とてつもなく多くのものが失われました。

あれから1年。被災地では、今もなお、復興に向け、震災によって生じた災害廃棄物の処理が全力で行われています。

しかしながら、その量はあまりにも膨大で、岩手県では通常の約11年分、宮城県では通常の約19年分にも達しており、両県だけではどうしても処理が追いつかないのが現状です。

一方、被災地では、仮設商店街がオープンするなど一人一人がそれぞれの中で確かな一歩を歩み始めています。

本展では、石巻市立湊小学校児童が木工造形家の指導の下、災害廃棄物の木くずを利用して制作した卒業記念トロフィー等を展示しています。

作品には、それぞれの児童の東北復興への思いが込められていますが、環境省では、被災地の1日も早い復興のためには、廃棄物の処理施設に余力のある全国の自治体や住民の皆さまのご協力をいただき、災害廃棄物を早急に処理することが不可欠であると考えております。

会場には、広域処理の対象となる災害廃棄物の安全性をお伝えするパネルと、そうした安全な災害廃棄物から制作された什器も展示しております。

一刻も早い復興へ向け、宮城県、岩手県の災害廃棄物の広域処理推進に何卒ご理解とご協力をお願いいたします。

東北復興に向けた災害廃棄物処理推進展

石巻市立湊小学校児童の復興への思いと災害廃棄物処理の今を伝える

2011年3月11日の大震災で、東北各地に壊滅的な被害が生じ、多くの命が失われ、多くの家が倒壊し、多くの物が失われました。震災から1年が経ち、被災地では、復興に向けて、震災によって生じた災害廃棄物の処理が全力で行われています。しかしながら、その量はあまりにも膨大で、岩手県では通常の約11年分、宮城県では通常の約19年分にも達しており、両県だけではどうしても処理が追いつかないのが現状です。一方、被災地では、仮設商店街がオープンするなど一人一人がそれぞれの中で確かな一歩を歩み始めています。本展では、石巻市立湊小学校児童が木工造形家の指導の下、災害廃棄物の木くずを利用して制作した卒業記念トロフィー等を展示しています。作品には、それぞれの児童の東北復興への思いが込められていますが、環境省では、被災地の1日も早い復興のためには、廃棄物の処理施設に余力のある全国の自治体や住民の皆さまのご協力をいただき、災害廃棄物を早急に処理することが不可欠であると考えております。会場には、広域処理の対象となる災害廃棄物の安全性をお伝えするパネルと、そうした安全な災害廃棄物から制作された什器も展示しております。一刻も早い復興へ向け、宮城県、岩手県の災害廃棄物の広域処理推進に何卒ご理解とご協力をお願いいたします。



石巻市立湊小学校

卒業生による災害廃棄物を利用した自分たちのトロフィーづくり

群馬県の木工造形家と石巻市立湊小学校児童6年生が挑んだこと。

それは、単なる木くずから卒業記念トロフィーを作ることではなかった。トロフィーの制作指導に当たった木工造形家の齊藤氏は、

「がれきと逃げずに向き合い、この震災を乗り越えて欲しい」と話す。

まさに、災害廃棄物の木くずを利用することが、災害そのものと向き合うことだった。

作業を終えて、齊藤氏は「子供たちにとっては、

援助をただ受ける段階から次の段階へと来ていると感じた」と話す。



石巻市立湊小学校

卒業生による災害廃棄物を利用した自分たちのトロフィーづくり

群馬県の木工造形家と石巻市立湊小学校児童6年生が挑んだこと。

それは、単なる木くずから卒業記念トロフィーを作ることではなかった。

トロフィーの制作指導に当たった木工造形家の齊藤氏は、

「がれきと逃げずに向き合い、この震災を乗り越えて欲しい」と話す。

まさに、災害廃棄物の木くずを利用することが、災害そのものと向き合うことだった。

作業を終えて、齊藤氏は「子供たちにとっては、

援助をただ受ける段階から次の段階へと来ていると感じた」と話す。

災害廃棄物の現状

東日本大震災により倒壊した家屋は全半壊合わせ約38万戸。一部損壊屋敷を加えればその数100万戸を超える。発生したがれきは、宮城県で1569万トン、岩手県で476万トンに上る。この数、宮城県では通常の約19年分に、岩手県では約11年分に匹敵する膨大な量。

被災当初、道路を埋め尽くしがれきは、連日の撤去作業により仮置き場に集められ、それによって使用できる土地は大きく広がった。

ただ、目を遠くに移せば、その先に高く積み上げられたがれきの山が飛び込んでくる。そう、がれきは処理されたのではなく、ただただ高く積み上げられただけなのである。

燃やすにしても、砕くにしても一日で処理できる能力には限界がある。だからこそ、その処理に向け、多くの処理場が必要になってきている。



災害廃棄物の現状

東日本大震災により倒壊した家屋は全半壊合わせ約38万戸。一部損壊屋敷を加えればその数100万戸を超える。発生したのがれきは、宮城県で1569万トン、岩手県で476万トンに上る。この数、宮城県では通常の約19年分に、岩手県では約11年分に匹敵する膨大な量。

被災当初、道路を埋め尽くしがれきは、連日の撤去作業により仮置き場に集められ、それによって使用できる土地は大きく広がった。

ただ、目を遠くに移せば、その先に高く積み上げられたがれきの山が飛び込んでくる。そう、がれきは処理されたのではなく、ただただ高く積み上げられただけなのである。

燃やすにしても、砕くにしても一日で処理できる能力には限界がある。だからこそ、その処理に向け、多くの処理場が必要になってきている。

「東北復興に向けた災害廃棄物処理推進展」石巻市湊小学校卒業記念トロフィー一覧

相澤鈴 (あいざわすず)	阿部樹裕太 (あべなゆた)	及川榛太郎 (おいかわはるたろう)	奥田駿斗 (おくだはやと)	小野寺心 (おのでらこころ)	鹿野貴久 (かのたかひさ)	加美山美怜 (かみやまみれい)
震災でなくなってしまう家や高い建物を、明るい未来を願って明るい色をたくさん使って作りました。もっとすばらしい世界になってほしいという思いを込めました。	被災した人たちに元気を与えられるように願って作りました。	宮城県がこんなふうだったらいいなと思って作りました。	元の街のように復興し、さらに良くなるようにと願って、龍に守られた街を作りました。	今まで支えてくれた家族や先生方への感謝の気持ちを込めてこのトロフィーを作りました。	明日へ進め、という思いを込めて作りました。	みんなが明るい気持ちで笑顔を取り戻せるように、明るい色でカラフルに仕上げました。

日下大輔 (くさくだいすけ)	後藤優太 (ごとうゆうた)	小林萌花 (こばやしももか)	斉藤未来 (さいとうみく)	佐々木青空 (ささきそら)	佐藤明日香 (さとうあすか)	鈴木瑠綺亜 (すずきるきあ)
復興した未来に残る作品を目指して作りました。	天使の翼をイメージして左右対称に作りました。	楽しかった思い出の貝を使って作りました。	震災で家が被災した人たちのことを思いながら、このトロフィーを作りました。何年後かに湊地区に戻ってきた人たちが住む家を想像しました。湊地区が早く復興できるようにとの思いを込めました。	震災で犠牲になった人や、スポーツができなくなった人の思いを乗せて作ったトロフィーです。	みんなが楽しめて明るく暮らせるような家を想像しながら作りました。	震災で少なくなった家や建物が増えてほしいという願いを込めて作りました。

大黒彩 (だいこくあや)	高橋圭祐 (たかはしけいすけ)	千葉禪 (ちばぜん)	寺上舞香 (てらがみまいか)	那須川真大 (なすかわまお)	星日菜子 (ほしひなこ)	茂木亜美 (もぎあみ)
被災した人が安心して楽しい暮らしができるようにと思って作りました。	震災ではなれた、友達や家族なども、心はどこでも一つだよ！というのを考えて作りました。上に集まっているのは、心です。	自分へのトロフィーということで思いに任せて作ったら、このような作品になりました。	このような大震災が2度と起きないようにとの願いを込めて作りました。	未来に飛び出すロケットをイメージしてこのトロフィーを作りました。	石巻のシンボルの桜と、6年間の思い出を込めて作りました。	湊地区は震災によって大きな被害を受けて、家などの建物がなくなってしまったので、早く復興して湊地区に住んでいた人が戻ってこれるように、復興した街をイメージして作ってみました。

吉野朱音 (よしのあかね)	佐藤陸 (さとうりく)	鈴木丈 (すずきたけし)	松川優香 (まつかわゆうか)
震災で湊地区の建物がなくなってしまったので、何年後かに元の湊地区に少しずつ近づけるように願って作りました。	大震災が起きたことを世界中に知らせたくて、鳥のデザインにしました。	このトロフィーを見ている人と天国の人たちの気持ちが通じ合えばいいなあと、ユニコーンのデザインを考えました。	早く、湊が「もとの湊」にもどれるようにとの思いを込めて作りました。『笑顔あるれる湊』にしたいと思います。私もうがんばります。

パーティクルボードについて

製造方法

・木材を一度小片（チップ化）し、これを接着剤で再結合した木材製品です。遮音性・断熱性に富み、特に寸法安定性・価格安定性等、優れた特徴があります。



木質廃棄物



チップ



パーティクルボード

使用用途

・パーティクルボードの用途は主に3種類に構造用、建築用、木工用に分類できます。それぞれの主な使用例は下記の通りです。

◇構造用…構造用合板の代替品として使用されている。主な使用場所は戸建住宅の耐力壁として。

◇建築用…乾式二重床工法のベースパネルとして使用されている。主な使用場所は集合住宅の床下地材として。また、最近ではフローア用台板としても開発され使用されている。

◇木工用…木工家具の素板として使用されている。主な使用場所はシート張り加工をされた後、システムキッチンや、住宅・オフィス用家具の扉や側材・棚板・天板として。



構造用



建築用



木工用

資料提供：東京ボード工業株式会社